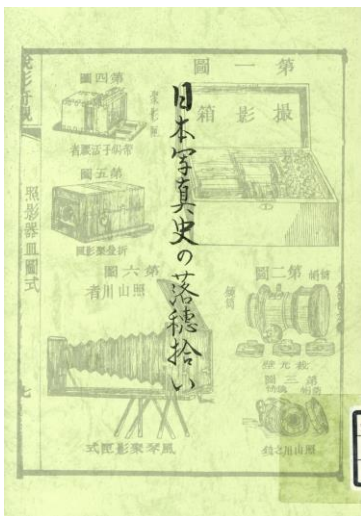


写真人とその本 16 / 亀井 武

日本カメラ博物館 JCII ライブラリー
学芸員 宮崎真二

亀井武 (1915-2001) は、1939 年に文部省図書館講習所 (後の図書館情報大学、現：筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類) を修了し、1943 年に小西六写真工業 (現：コニカミノルタ) へ入社しました。化学研究所図書室にて勤務する一方で、1953 年から発行された社内誌『小西六タイムズ』の編集にも携わりました。1964 年には社史編纂室へ異動し、1973 年に発行された社史『写真とともに百年』の編集を手がけます。同書は、一企業の社史としての枠を超えた日本の写真発達史そのものともいえるべき内容によって、現在でも高い評価を受けています。



『日本写真史の落穂拾い』

『写真とともに百年』の編集と並行して、日本写真協会が「写真の暦」となる『日本写真史年表』を作成するにあたり、資料収集の委嘱を受け編集者として携わりました。本書は 1976 年に講談社から発行され、日本の写真史を辿る際には欠かせない資料となっています。そのほかにも日本写真協会では、年鑑の『日本写真年報』編集委員として、写真史年表と写真関連図書という細かつ正確な内容が求められる項目を長年にわたり担当したほか、会報の『Photography in Japan』に随時寄稿を行いました。

1991 年には、『日本写真史の落穂拾い』(日本写真協会) を著しました。本書は同会報 1988 年 9 月号からの連載 15 回分をまとめたものです。明治元年から 15 年までの新聞に掲載された写真関係の記事と広告を基に、御真影、水出し写真、幻燈、写真師に関するエピソードなど、写真に関する細かい話題 65 項目を随筆調に読みやすくまとめています。本書刊行後も 1995 年 4 月の 375 号まで全 35 回連載されたのち、『カメラレビュー クラシックカメラ専科』36 号 (1995 年 12 月) から 17 回にわたって継続連載され、59 号 (2001 年 5 月) の「明治初期の九州地方の写真界」が、未完のまま遺稿となりました。



『日本写真史への証言』(上巻)

1997 年には、東京都写真美術館叢書として淡交社から発行された『日本写真史への証言』上下巻の編集を担当しました。本書も日本写真協会会報の 1982 年 4 月号から 1988 年 4 月号まで連載された内容を主体にしています。写真家、感光材料開発と生産、写真流通業など各分野で活躍した人々からの聞き書きに加え、カメラ製造に従事した人物の自伝や、光学技術者の回顧私信、幕末、明治期の写真師について調査したものを交えた 15 章で構成されています。

日本の写真史に関する調査と著述、ならびに知られざる写真史発掘に生涯を尽くした亀井が残した書籍は、今日我々が写真史を調べる際に大切な基礎資料となっています。